〔科目名〕 異文化の理解				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目 (第2群)	
〔担当者〕 下村 育世		〔オフィス・アワー〕 時間:火2(それ以外もメールでアポとり可能です) 場所:研究室			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 <p>グローバル化が進むなかで、日本国内への外国人の旅行者や居住者は年々増加し、留学や旅行で外国を訪れなくても、国内において諸外国との文化的な違いを感じる場面は日常的に増えている。青森県もちろん例外ではなく、昨2024年、県内の外国人労働者数と外国人労働者を雇用する事業所数は過去最高を記録した。とりわけ文化の重要な一要素である宗教にかかわる文化的差異を、宗教的理由から特定の食べ物を食べない人々やこれまで見かけなかった外来宗教の施設を目にするなかで、意識する機会は今後も増えるだろう。宗教文化への無理解や誤解は深刻な問題をひきおこすおそれがあるため、適切な知識を学ぶ必要性は高まっていると言える。</p> <p>当たり前だと捉えている自文化は、特定の文化的条件のもとでのみ通用する「メガネ」を通じて見えている世界かもしれない。異文化をまなざし接触する際には、その「メガネ」に「色」や「くもり」がある可能性への自覚や自省が求められる。使い慣れた「メガネ」を疑い、異なる「メガネ」の存在を知り、両者を調整することは、日本の文化のありようを世界の人々に理解してもらい、諸外国の文化を理解するにあたって必須であり、多文化共生が進行する社会で「他者」と共存していく考え方や視点の基本となるものである。本講義では、さまざまな「宗教」を取りあげながら、自文化と異文化についての知識と理解を深めていきたい。</p>							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>・なぜ、学ぶ必要があるか: 宗教は人々の価値観、行動、文化の根幹に関わっている。宗教を知ることは、他者の行動の背景を理解する手がかりになると同時に、自分の価値観を相対化し深める。自己および他者をより深く理解し、異文化理解のための文化的寛容を身につけるにあたり必要である。</p> <p>・学んだことが、何に結びつくか: 異なる宗教的背景を持つ人々が暮らす現代において、相互理解は共生の基盤となる。多文化共生社会の実現へとつながる。</p>							
〔科目の到達目標〕 <p>本講義の到達目標は本学の教育目標に照らして、受講生が以下の3点を身につけることとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の主要三大宗教であるキリスト教、イスラーム、仏教を中心とした宗教の基礎的な知識を得る。 ・それらの宗教の歴史・文化や習慣を理解し、違いを説明できる。 ・上記を踏まえた上で、自己の宗教観と日本の宗教について説明できる。 							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>昨年度は講義内でイスラームグッズに触れる経験をしてもらった。教員にとっても初めての試みであったが、思ったより好評だったようなので、今年も計画する予定である。</p>							
〔教科書〕 <p>適宜授業ごとにレジュメや資料を配布。</p>							
〔指定図書〕							

<p>〔参考書〕 櫻井義秀・平藤喜久子編『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015年。その他、授業のなかで紹介する。</p>	
<p>〔前提科目〕 語学科目は、異文化・自文化理解に役立つでしょう。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 60 点、期末レポート 40 点を総合して評価する。 ・平常点は、授業内で課す小クイズやリアクションペーパー、また授業外での調査を要するミニレポートの作成、の提出と理解・達成度を総合的に判断して評価する。 ・期末レポート課題と評価方法については、授業時に説明する。 	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では「無宗教」と称する人が多い。どこか「宗教」は他人事のように感じ、これまで宗教について学ぼう、理解しようと考えたことはなかったかもしれない。しかし日本は、宗教と無縁であったわけではなく、さまざまな宗教を外国から受け入れ、独自の方法で変容させながら日本文化の一面を形成し生活のなかに溶け込ませている。日本人にとって「宗教」とは何を意味するのか、授業を通じて考えていきたい。 ・授業の進行上、シラバスの内容やスケジュールを変更することがある。 	
<p>〔実務経歴〕</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか)：ガイダンス 内 容：①授業全体の構成、評価方法とその内容、授業の注意点の説明。②異文化理解の基礎としての「宗教」。日本の公教育における「宗教」の扱い。文化によって異なる「宗教」の捉え方。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか)：「宗教」へのアプローチ 内 容：「宗教」を対象とする様々な学問。他者理解としての宗教学の成立。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか)：日本の宗教状況1：自文化を知る。日本人は無宗教か？ 内 容：世論調査から宗教を読み解く。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか)：日本の宗教状況 2：自文化を知る。マスコミでよく使われる数値のからくり。 内 容：コンビニよりも多い日本の宗教法人とは。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか)：日本の宗教状況 3：自文化を知る。 内 容：政府の統計資料から宗教を読み解く。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか)：世界の諸宗教文化(ユダヤ教) 内 容：世界の宗教分布。唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教。ユダヤ教と食文化、服装、通過儀礼。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(キリスト教1)</p> <p>内 容:ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教。</p> <p>教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(キリスト教2)</p> <p>内 容:西洋と日本の接触。キリスト教伝来と禁教。</p> <p>教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(イスラーム1)</p> <p>内 容:イスラームと食文化、お酒、女性。</p> <p>教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(イスラーム2)</p> <p>内 容:イスラーム文化に触れてみる。</p> <p>教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(イスラーム3)ラマダンやハッジは毎年日取りが異なる?</p> <p>内 容:イスラームの暦のメカニズム。唯一神信仰における死と生についての考え方の違いと共通点。</p> <p>教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(仏教1)</p> <p>内 容:インドにおける新宗教運動としての仏教。仏教の大きな二つの流れ。アジアにおける仏教の展開と変容。</p> <p>教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(仏教2):地獄ってどこにある?</p> <p>内 容:仏教の世界(須弥山と地獄・極楽)とは。</p> <p>教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(仏教3):肉食し妻帯する僧侶は日本だけ?</p> <p>内 容:日本における仏教受容。神仏習合と葬祭仏教。</p> <p>教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):総括</p> <p>内 容:まとめ。</p> <p>教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示</p>
試験	<p>平常点と期末レポートで成績評価するため、期末試験は実施しない。</p>